

## 茨城県私学審議会・「附属牛久中学校設置認可適当」との答申

### 女子マラソンの銀メダリスト有森裕子さんの講演・・・諦めない粘る努力を！

東洋大学附属牛久高等学校 校長 遠藤隆二

10月2日の夕方、茨城県総務課私学振興室から、「9月30日（火）の茨城県私学審議会において、東洋大学附属牛久中学校の設置認可申請について審議され、『設置認可適当』という知事宛での答申がなされ、知事も確認された。」との連絡があった。新校舎完成後の平成27年2月頃、再度現地調査を行い、その結果をみて正式に認可となる見通しとのことであった。この仮設置認可により、附属中学校の入学試験業務を行ってもよいことになった。正式設置認可は平成27年2月頃とのことであるが、これから入学試験業務を行って一定数の入学生を確保し、新校舎が完成すれば、平成27年4月に開校できることになった。まだ正式設置認可ではないが、これまでの苦勞が報われたようで嬉しさが込み上げてきた。一安心ではあるが、開校までには「なすべきこと」がまだまだたくさんあって喜んでいけるゆとりはない。定員確保の努力とともに、細心の注意を払いながら入試業務を着実に進めなければならない。同時に4月から始まる授業等の様々な準備にも遺漏のないように、万全を期さねばならない。中学校が無事スタートし、軌道に乗ったら、皆で慰労し合い、お祝いをしたい。



創立 50 周年記念 PTA 講演会を知らせるポスター



2014.10.11 「諦めるな！辛抱せい！」と語る有森裕子さん



2014.10.11 身を乗り出し熱心に聞く生徒・保護者・教職員

10月11日（土）の午後、講堂において、PTA 会員研修会が行われた。昨年度は、「時の人」受験生に圧倒的人气のある東進ハイスクールの林修先生をお招きし、「いつやるか？ 今でしょ！」というテーマで話をいただいた。今年度は、本校創立 50 周年を記念する「記念講演会」と位置づけ、後援会長の池辺牛久市長さんにもご出席いただき、ご挨拶をいただいた。講師には 1992 年のバルセロナオリンピックで銀メダルに、1996 年のアトランタオリンピックで銅メダルに輝いた女子マラソンの有森裕子さんをお招きし、「思いつづければ、夢はかなう」のテーマで約 90 分間、話をしていただいた。当日は休業日であったにも関わらず、保護者だけでなく、陸上競技・駅伝部や硬式野球部等の生徒たちを含め約 300 名が参加し、有森さんの生い立ちや小中学校・高校大学時代の様々な興味深い話に身を乗り出し、聞き入っていた。昨年に続き、テーマも講演内容も good timing で生徒・保護者の心にフィットし、大好評であった。

有森さんは、股関節脱臼で生まれ、その手術により半年間両足をギプスで固定していたため、歩行が普通の子どもより約半年遅れたそうです。そのことが影響してか、体を動かすことに自信がもてず、自然と運動から遠ざかるようになって、小学生の時には手芸に夢中になる少

女であつたらしい。中学時代は3年間バスケット部に入っていたが、運動会の800mで優勝したことが契機となって、高校に入ると「走りたい思い」で陸上部に入部を希望したが、「実績のない素人はダメ」と断られたという。それでも「走りたい」欲求を抑えきれず、何度も何度も監督に様々な方法で自己アピールを繰り返したそうです。その努力が功を奏して陸上部に入部したものの、「3年間連続補欠で後輩の荷物持ち」をするなど、かなりみじめな思いをしたらしい。それでも走ることにこだわり、大学に進んでも陸上部に入ったが、後輩に追い越され、大学でも実績を上げられなかったという。一時は自転車やトライアスロン競技に魅かれたものの、「走りたい」思いを諦めきれず、とにかく「走りたい」思いで「リクルート」に入り、小出監督の指導を受けるようになったそうです。その頃から全日本陸上選手権等での実績を上げはじめ、有森さんの名前がようやく日本陸上界にも登場するようになり、ついに夢が叶ってオリンピック日本代表にも選ばれるようになったという。有森さんは、バルセロナオリンピックで銀メダルに、その4年後のアトランタオリンピックで銅メダルに輝いている。

有森さんが2回連続でオリンピックのメダリストになれたのは、「『走りたい』という強い思い」と、「辛抱せい！ 諦めるな！ 粘れ！ そうすればいつかは絶対に前に行ける！」という恩師の言葉、そして、「3年間補欠で後輩の荷物持ち」等に甘んじなければなかった屈辱にも耐えた粘り強い努力の賜物ではなかったかと思う。あのアトランタで42.195 kmを走り終えてメダルに輝いたとき、爽やかな笑顔でマイクに向かって「自分を褒めてあげたい」と言った理由がようやく納得できた。あの爽やかな笑顔と目の前の有森さんが重なって、優しい表情にも強さが伝わってきた。人間は「このようにしたい」と思わない限り、そうはならない。そういう気持ちをもたないと伸びない。「実績はないが、走りたいという気持ちが強い。今一番必要なのは『やる気だ』」と言って、有森さんを採用した小出監督も素晴らしいが、高校時代の恩師の言葉と小出監督を信じ、諦めず粘り強く努力を重ね続けた有森さんに脱帽した。本校においても「このような学校にしたい」と思って努力すれば、必ずや「そのような学校になるもの」と勇気づけられた。メダリストの努力とその結果から生まれた「諦めない心」「我慢し耐える心」「粘り頑張る努力」「思い続ければ、夢はかなう」等の言葉は、生徒たちの心を捉え、生徒たちの心に響き、火が点いたのではないかと思う。PTA 会員だけでなく、すべての生徒に聞いてほしい内容であった。

### 今年度の入試説明会



2014.10.02 茨城県内の学習塾対象の入学試験説明会



2014.10.08 千葉県内の学習塾対象の入学試験説明会

10月1日(水)の午後、茨城県内の公立中学校の先生方対象に、2日(木)は学習塾対象につくば市のグランドホテル東雲において、8日(水)はクレストホテル柏において、千葉県内の学習塾対象にそれぞれ今年度の高校入試説明会を実施した。仮認可の中学校の入試説明会は、2日(木)と8日、高校の説明会終了後にそれぞれ実施した。これら3日間の入試説明会に出席された関係者は合計214名であった。

説明内容は学校の現状と基本方針、出願・入試日程・推薦入試の推薦条件・入学手続き等であったが、高校では推薦入試の推薦条件や東洋大学への附属推薦基準、合否基準等に関する質問が、中学校では試験問題の内容やレベル等に関する質問があった。中学校は新設校で入試情報がまったくないため、塾の先生方が入試問題の内容やレベルに関心をもつのは当然であろう。プレテストを実施する理由はそこにある。

学習塾には、塾生に「プレテストを受験するよう」働きかけてほしいとお願いした。プレテスト問題を見れば、本校の出題傾向や問題レベルは分かるし、受験結果も分析して返却する予定であるため、受験生のメリットはとて大きいと思う。是非本校のプレテストを受験し、本校の入学試験がどんなものか、疑似体験してほしい。